

夢月みどり

親子で乾杯!

アソ・萌夢



BY アソ・萌夢

夢月みどり

親子で乾杯！

アン・萌夢

FOR YOU

BY アン・萌夢

誠文堂新光社

●誠文堂新光社の雑誌

子供の科学／天文ガイド／MJ無線と実験／初歩の
ラジオ／DEVICE file／農耕と園芸／ガーデ
ンライフ／フローリスト／商店界／アイデア／ポー
トフォリオ／プレーン／囲碁／愛犬の友／月刊 芽

親子で乾杯！ FOR YOU 定価1100円

NDC 901.4

1985年9月27日 発行

著者／アン・^{めいむ}萌夢

企画・構成／アートD・R・C

発行者／小川茂男

発行所／誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5-5（〒101）

振替 東京7-6294 電話 03-292-1211

印刷／錦印刷株式会社 製本／若林製本所

〈検印省略〉

By ANN MAME © 1985 アートD・R・C

本書掲載記事の無断転用は出来ません

Printed in Japan

ISBN4-416-88522-9

万一、落丁・乱丁本の場合はお取替えます

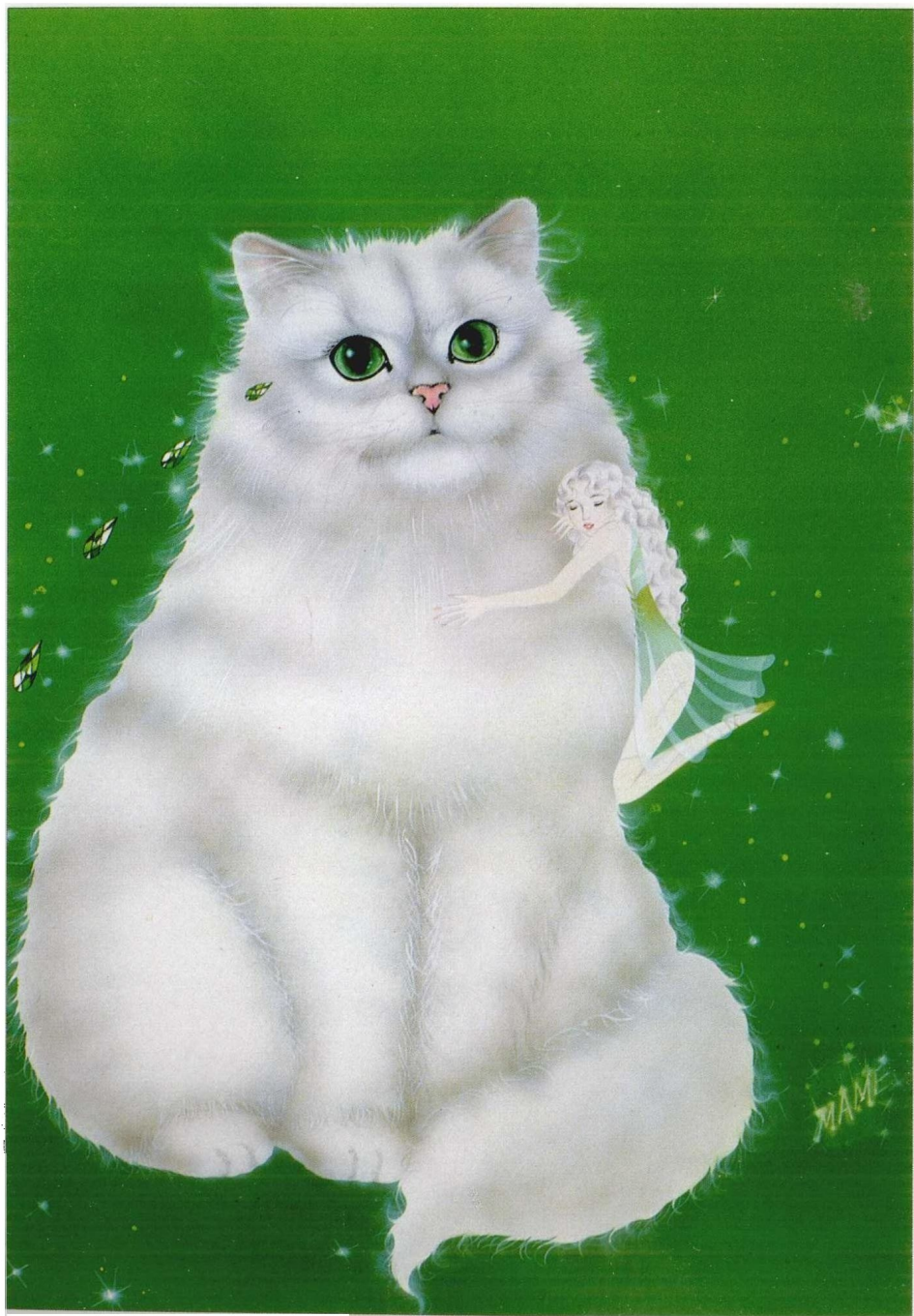
ゆめものがたり
夢物語

Dreamlike Story より



たんぼほいろ
蒲公英色

dandelion color



しあわせいろ
幸福色

happy color



たそがれいろ
黄昏色
twilight color



BY ANN MAME
©1985 アートD・R・C

はくぎんいろ
白銀色
silver color

親子で乾杯！

親子で乾杯！ 目次

あなたへ・9

初時夢・10 はじめてのゆめ FIRST TIME DREAM

やったね！世界一・12 エルバ賞グランプリを受賞して

「フォーカス」に載った一枚の写真・17 スクープされた母の独身

夢見る夢子さん・24 たった一行だった初めての作文

小さな同居人・29 動物達のメモリー

三年月組熱血先生・33 あああだんだん眠くなる

人生 $\frac{1}{3}$ しか生きられない子・38 父母会での先生の一言

読みたい時に読みたい本を・41 何故？低学年の本を読んではいけないの

あの子はよい子？・44 大人にとって都合のよい子

あなた 生意気よ！・48 サヨナラ いじめられっ子

カルチャーショックは一滴の水・53 素晴らしきミクロの世界

私 大人は嫌いです・60 だれもが通る迷い道

間違えられて 困るんです・64 出版社の応接間にて

あなたは夢月派？ 萌夢派？・68 母と私の恋愛方程式

私の口ぐせ・70 メルヘン症候群の母を持つ娘の独り言

お酒 お付き合い程度には・73 飲めぬなら 飲むまで待とう 夢月さん

我がまま一杯 夢一杯・76 昔作る人 今食べる人

親は子の鏡・81 よい母の育て方教えます

親子で乾杯！・84 ウェディング・マーチを聞く時こそ

おわりなきゆめ
終無夢・86 *ENDLESS DREAM*

親子で乾杯！・92 夢月みどり

この本を読んで下さった皆様へ・98

二人の歩み・99

表紙・カバーデザイン：アートD・R・C
フォト：夢月みどり／イラスト：アン・萌夢
© 1985 アートD・R・C

あなたへ

20歳とチョッと過ぎた私が、大人と子供の心を持って

母のこと、学校のこと、仕事を始めてからのこと、

嬉しいことも 悲しいことも みいんな そのまま文字にしたつもりです。

白い原稿用紙を前に、タイム・マシーンに乗って、あの頃の私になって、

心のページを一枚ずつ書きあげました。

このメッセージ 誰に読んでもらいたいですか？ の質問には……

この本に登場している母

学校でお世話になった先生

仕事で出会った人達

応援して下さっているファンの方々

そして誰よりも誰よりも読んで欲しいのは

そう、もちろん 今、本を手に行っているあなた……

アン・萌夢

初時夢

FIRST TIME DREAM

「子供は何にでも成れるのよ」と言った母。

そんな母から生まれた私は……

小さな 小さな頃

大きくなったら なんになるの？ と聞かれ、なぜか 迷わず「ぞうさん」と答えた。

小学生の頃

大きくなったら なんになるの？ と聞かれ、迷わず「宇宙飛行士」と答えた。

母 夢月さんと私 萌夢は、

今、なんにでもなってみようという 好奇心のアンテナをたて、夢見人ゆめみびとしているのです。

大人だって皆、昔は、ガラス細工のような透明で輝く感性を持った少年や少女の時があっ

たはず。

美しいものを 美しいと感じられる心が……

目を覚まして……一緒に素敵な夢を見ませんか……



やったね！
世界一

やったね！ 世界一 エルバ賞グランプリを受賞して

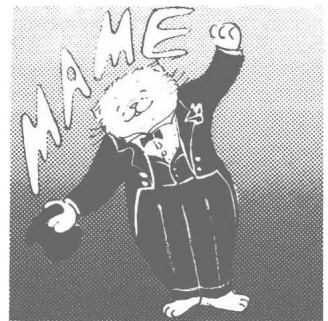
二月十日夜十一時頃、R i R i R i — N、電話のベル。

電話は、出版社の社長様からでした。

「よい知らせがあります。イタリアのボローニアで毎年行われる国際児童図書展で、エルバ賞グランプリを『メームCATの1・2・3』^{キャットワン トウスリー}が受賞しました」……後は何を、どんな話をうかがったのか、嬉しくて、あまり嬉しすぎて、なんだかボートとしてしまいました。絵本の世界に入った人なら誰でも夢に見るヨーロッパ最大級のこの図書展の賞だったものですから……。私達の本が出品されていることさえ知りませんでしたので、本当に夢のようでした。

受賞の知らせを聞いて思い出されたことがあります。

そう、高校から大学への進学をクラスメートが決める頃でした。「私はK大学に進学する



ことにするワ」とか「大学へ行ったら教育学を専攻しようと思っているの」とか、もう進学のことばかり。担任の先生から「君はどうするの?」とよく聞かれたのですが、みんなが大学に行くから、私も行く方がいいのかな?……。美術系の学校に行ったらとか、微生物の研究を中学の時からやっていたから理科系の学校は? 料理が上手だからフードデザインになったら? とかいろいろと助言をして下さる先生もいました。

母は「大学に行くにしても二、三年浪人する人もいるのだし……。お母さんにその二、三年をあずけてみない? あなたが考えること、作るもの、それはほかの人では考えられない、出来ないことよ。あなたは素晴らしい発想人間だと思うの。だから決められた課題をこなし、手先だけの技術、手法を学ぶのではなく、自分の頭にある発想を、考えを、忠実に表現するためには、技術、手法を自分で探し、自分の技法を考え出さない。一本の線も一つの丸もあなたの手法で、あなたの色で表現し、作品を作ってみなさい。あなた自身が先生になって、あなたが生徒になる。甘く点つけるのも、辛くつけるのもあなたの勝手、自分で自分を育ててみなさい。とっても大変なことだけど。あなたの発想は、ほかの人では表現するのは無理なのだから……」

母からこう言われたのですが、なんとも返事出来るような状態ではなく、どうしたものかと自分でも悩みました。

そこで私なりに、自分で大学を見学してみたのですが、でも何かが違う、私の中にある何かと……。

高校に入ってから、母と一緒に作品展を開きました。母の写真と私の絵、それと手造りのものいろいろ。

目を輝かせてたくさんの人達が、作品展をとて喜んで見て下さいました。

大人から子供まで、嬉しそうな顔、顔……。何故か作品展で喜んで下さった人達の顔を思い出しました。自分の心が迷っている時に……。

そして私は決心しました。誰も教えてくれない自分の人生だもの、まだまだ若いのだから、チャレンジしてみよう、自分で自分に。

と思ったものの、不安で不安でたまらない毎日でした。頭にある作品をどう表現したのか、筆一つ絵の具一つにしても、不安のため、使わないものまで大量に買い込み、部屋の中が画材だらけになったりもしました。

頭にある絵も、技術の未熟さで、書いても書いても、違う、違うで書き直し。悔しくて、悔しくて、もう止めよう、もう止めようと思うのですが、ここで止めたなら私には何もない、私にはこれしかないのだと思い返す、そんな日々が続きました。

そんな時母は、失敗は、もっとよく書けるためのご招待だ、と言うのです。あなたにと